

富山県黒部市で発見されたウシガエルについて

不破 光大・草間 啓・稲村 修（魚津水族館）

American bullfrog *Lithobates catesbeianus* detected in Kurobe-shi,
Toyama Prefecture, Japan

Mitsuhiro FUWA Satoshi KUSAMA Osamu INAMURA
Uozu Aquarium

はじめに

ウシガエル *Lithobates catesbeianus* は、北米東部原産の外来種で、日本へは1918年に食用として移入されたが、養殖業が廃れると逃亡等により各地で見つかるようになり、現在は環境省の特定外来生物に指定されている（関・松井，2016）。

富山県には、1924年10月31日に茨城県から変態直後の個体が富山県水産講習所（現在の富山県水産研究場）に持ち込まれたのが最初とされる（前田，1926）。野外では、昭和10年代には高岡古城公園で既に生息していたとされる（泉・瀬川，1985）。富山県内では、主に西部で生息が確認されており、滑川市より東側ではほとんど生息が確認されていない（南部，2001）。

今回、黒部市立野で本種を発見したので報告する。

確認状況について

確認日時：2015年7月1日 21時頃

確認場所：黒部市立野（標高1.5m）

個体数：1個体

全長：15cm（目測）

確認者：不破光大

目視確認した個体は、写真撮影後に逃走したため捕獲できなかった。本地点は、トキの飛来地として有名な休耕田を利用した

ビオトープである。確認直後の2015年7月3日に周辺を再調査したが、確認できなかった。



考察

富山県東部における本種の記録は、黒部市石田の片貝川右岸の水溜り（稲村・不破，2007）のほかに、入善町柵山（太田・長井，1963）、黒部市生地・立野（黒部市史編纂委員会，1983）の記録がある。

黒部市石田では、2011年7月2日の調査で卵塊を発見しており、繁殖が確認された。

しかし、入善町柵山、黒部市生地・立野では、筆者の一人である稲村（1991）の調査で確認されていない。また、その後も筆者らは水生生物調査や採集を行ってきたが確認されておらず、定着していなかったと推測している。

今回の黒部市立野で発見された個体について、定着個体なのか、黒部市石田の生息地から分布拡大したものなのか、人為的なものなのかは不明である。しかし、本種の繁殖力を考慮すると、今後さらに生息範囲を広げていくことが危惧されるため、引き続き周辺地域を含めた調査が必要である。

加えて、本種は外来生物法によって運搬・飼育などが禁止されている特定外来生物に指定されているため、注意が必要である。

謝 辞

資料の収集にあたり便宜を計っていただいた富山市科学博物館の南部久男専門員に厚く御礼申し上げます

引用文献

- 泉治夫・瀬川哲示, 1985. 公園のかめ・へび・かえる. 高岡古城公園の自然. 桂書房, 富山. 132-138.
- 稲村修, 1991. 富山県における外国産の両生類・爬虫類・魚類について. 魚津水族館年報 第1号. 32-42.
- 稲村修, 不破光大, 2007. 2007年片貝川水棲生物調査. 魚津水族館年報 第18号. 27-35.
- 太田弘・長井真隆, 1963. 富山県東部の生物と教材. 吉枝三光堂, 富山. 23-25, 185.
- 黒部市史編纂委員会(編), 1983. 黒部市史自然史編. 175-179.
- 関慎太郎, 松井正文, 2016. 野外観察のための日本産両生類図鑑. 緑書房, 東京. 169.
- 南部久男(編著), 2001. 富山市文化科学センター収蔵資料目録第14号 両生類・爬

- 虫類. 富山市文化科学センター. 35.
- 前田九平, 1926. 食用蛙飼育試験. 大正13年度富山県水産講習所事業報告. 65-66.

魚津水族博物館年報 第26号

ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM No. 26

2017年3月発行

編集・発行/魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

印刷/新誠堂

〒937-0066 魚津市北鬼江1-2-27

TEL (0765) 22-4014

FAX (0765) 22-4005